

教育目標		のびのびとくわいばい活動する子どもの育成					
重点目標		1、遊び込む子どもの育成をめざした保育を実践する。 2、異年齢のかかわりが生まれるような保育の工夫に取り組む。 3、家庭、地域、小学校、中学校、未就園児など共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。					
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価
学力の向上	自ら学び考える力を育む教育の推進	・遊び込む子どもを視点として遊んでエピソード記録を行いながら保育に取り組む。 ・学期に一度の保育を見合う園内研修を進める。	・週案の中に「遊び込む子ども」を視点としたエピソード記録の枠を設け、そこから「遊び込む子ども」とその状況について共通理解を図りながら保育を進めていく。 ・教職員アンケートで「園内研修で保育力向上につながる学びを得た」と答えた割合が8割を超える。	B	・子ども達が自分のやりたい遊びを明確にし、生き生きと遊び出すようになった。 ・日々の保育の後に、子どもの育ちやつまづきを話し合い、共通理解して進めていったことで、職員が同じように子供達を支えていることが出来た。 ・講師の先生に教えていただいた、エピソードが教育課程のどこにリンクし、どの遊びから繋がっているかを意識してより詳しく書くようにしたことで、子どもの心情を理解し、深め、また、次の活動を計画することに生かすことができた。 ・また、遊び込む環境や手立て、教師の援助にはたくさん改善の余地がある。	・エピソード記録を継続的にしていながら、子ども理解をより深めていくことや遊びの中で必要なことに気づき、環境が整えられるようにしている。 ・遊び込んでいるととらえる具体的な子どもの姿から、教育課程に基づいた遊び込んでいると読み取られる子どもの心情や意欲がわかるような環境の構成や言葉かけ、援助のあり方についてさらに深めていきたい。	・子ども達それぞれの遊びが、自分の意思をもって行われている。またその遊びに自信がみられ、よりその遊びが発展していく様子が見られた。 ・遊び込むことで、楽しいだけでなく物事を考える力がぐく、とてもよく取り組みだと思ふ。
	子どもたちの教育課題に応じた学習・指導の実施	・異年齢の関わりを通して育ち合う教育を推進する。	・異年齢の関わりが生まれるような環境や手立てを継続的に行う。	A	・毎日の習慣として、時間をあわせて体操やマラソンを行ったり、室内の好きな遊び・外の好きな遊びの時間を共通にして異年齢の関わりも増えてきている。 ・作品展等の活動で、自分を取り組んだことを異年齢の友達に教えてあげる主体的な姿が見られた。	・意図的に関わりが生まれるような環境を整えておくこと、教師の声かけなど、を継続的に行う。 ・自分が体験・経験したことを自信を持って教えてあげたいと思えるように一人一人の育ちを支えている。	・運動会の行事では競技をきつかけに互いの年齢差から見える困難を克服しようとする力強い姿が見られた。 ・毎日の登降園や遊びの中でも互いに気遣い合う姿が見られている。
	特別支援教育の推進・充実	・特別支援教育コーディネーターを中心として、一人一人のよさや違いを認め合い、共に育ち合う子どもの育成に努める。 ・チューリップ学級対象児だけでなく、個別の支援や配慮を必要とする子どもへの理解を深め、全職員で話し合い、保育を進める。	・個々の姿から個別指導計画を作成し、全職員で目標や支援方法を共通理解し保育を進める。 ・7月末と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・気になる子どもへの配慮を、その都度全職員で意見交換し、学級経営に活かす。	・7月末と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・7月末と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。 ・7月末と3月末に個別指導計画のまとめを作成し、支援方法の振り返りや子どもの育ち、ねらいへの達成度について全職員で評価する。	A	・実態把握を十分にに行い、何度も会議を重ね、試行錯誤していったことで、支援を必要とする子どもの力が十分に発揮された運動会を行うことが出来た。 ・入院のために運動会以降は長期欠席が続いたが、クラスの一人として常に声をかけ、手紙を書いたりすることで、他の子どもたちが気持ちを寄せられるように手立てしていた。 ・他機関と連携し、園児の姿を見てもらうことにより、内面を理解し、より具体的な手立てを知ることが出来、個別に配慮することに繋がった。	・支援対象児については小学校への申し送りを十分に用いて、その後の様子も教えてもらいながら、必要な時には一緒に考えていこうとしている。 ・一人一人を細やかに見ていくことに引き続き取り組みながら、特性に応じた支援のあり方やより効果的な手立てについて、職員間でも共有しながら進めている。
豊かな心・健やかな体	豊かな心を育む道徳教育の推進	・自尊感情をほぐむ保育を実践する。 ・パスポートや個人懇談などで子育てを振り返ったり、子どもの人権について考え合ったりする機会をもつ。	・一人一人の思いを受け止め、友達とのよさや違いを認め合う子どもの育成に努める。 ・パスポートや個人懇談で、子育ての中で自尊感情や一人一人を大切にすること等について保護者が振り返られる機会をもつ。	B	・子ども自身が、自信を持って生き生きと取り組めるようにしていくための継続的な計画や展開を考えていくことが継続して取り組めた。 ・発達や個性に応じた保育の取り組みには100パーセントの肯定的回答を得ることが出来た。 ・保護者自身の自尊感情も低く、個人懇談等の中では、自分自身もへの評価の仕方も低いように感じられる。園での様子をきめ細やかに発信していきながら、保護者自身の自尊感情や子どもの見方の改善に繋がる啓発を工夫していく必要を感じる。 ・伊同研修会として、園長の経験・体験からの人権教育講演会は保護者も関心を持って聞いていた。	・子ども一人一人が自信を持って取り組めること、見てほしい、聞いてほしいと思うことがよりたくさん保育の中に取り入れられるように計画している。 ・身近な幼稚園での様子から、子どもの頑張りや伝えていくなど、個々の保護者と話す機会を多く持つ。意識の改革がはかれるよう啓発していく。 ・園長の体験・経験談から、又は講師を招聘しての人権教育講演会を実施し、保護者の理解が深められるような研修会を計画する。	・情報化が進む中、親子共に他者と比べると多くなってきている。そのような中で、子ども自身が心から楽しんで、気持ちよく、うれしなだけでなく、肯定的な気持ちを尊重できる幼児教育が今後より求められると思う。
	子どもの健やかな体づくりの推進	・基本的な生活習慣を確立させる。 ・親子で体を動かして遊ぶ場を計画的に設ける。	・けんこうカレンダーやレッドコート検査、食育研修会など、保護者と共に取り組む機会をもつ。 ・月に1回の親子で遊ぶ場を計画的に設ける。	B	・健康カレンダーなどを活用し、家庭とともに取り組んできた。習慣づくように指導しているが、実態としては、自分で「やらせよう」ということではないことも多いので、引き続き丁寧な指導していくことの必要性を感じる。 ・親子で遊ぶ機会には保護者の方も積極的に参加し、子どもと友だちと遊ぶ楽しさを感じられる様に啓発することが出来た。	・引き続き、健康カレンダーも活用しながら、家庭での生活習慣も確立できるように啓発していく。 ・親子で遊ぶ時間は、一定の成果が得られたところで、又新たな課題に向けて計画的に取り組んでいくようにする。	・親子で遊ぶ時間は、ふれあいが子どもと体力作りが出来るのでよかったです。
	開かれ信頼される学校園	・園の情報や教育活動を保護者や地域に積極的に発信する。 ・園の情報や教育活動を保護者や地域に積極的に発信する。 ・ホームページを行事ごとなどに更新することにより、園の様子を発信していく。	・玄関ホールのホワイトボードで日々の様子を発信する。 ・クラスだよりを発行し保育の取り組みのねらいや意図を保護者に伝えていく。 ・ホームページを行事ごとなどに更新することにより、園の様子を発信していく。	・行事ごとにタイムリーに更新することにより、保護者アンケートにおいて、「玄関のホワイトボードや、クラスだより、ホームページなどで子どもの育ちや保育内容がわかりやすく発信されている」と回答が8割を超える。 ・行事ごとにタイムリーに更新することにより、保護者アンケートにおいて、「玄関のホワイトボードや、クラスだより、ホームページなどで子どもの育ちや保育内容がわかりやすく発信されている」と回答が8割を超える。	B	・ホワイトボードで、毎日保育の一部を紹介し、発信することを継続できた。 ・クラスだよりは必要最低限の回数発行し、保護者にも今のクラスの様子を伝えることが出来た。 ・ホームページは行事ごとに更新しているが、多忙すぎずタイムリーに更新できなかったことが多かったと思う。	・引き続き、ホワイトボードやホームページなどで園の子どもたちの様子や状況がわかるような発信をしていく。 ・必要に応じてクラスだよりも発行し、遊びの取り組みの過程を子どもが伝えられるきつかけにしたり、思いに共感してもらったり出来るようにしていく。
地域との交流	・地域の幼稚園として、いろいろな機会を通して地域の方とのかかわりを広げ、深めていく。 ・小学校、中学校、未就園児など地域と共に育ち合う教育内容の工夫に取り組む。 ・地域の方が幼稚園を知る機会を設け、「幼児教育センター」的役割の充実を図り、子育て支援を行う。	・苗圃を活用する会の地域ボランティアの方、地域の方との交流の機会を持つ。 ・未就園児、小学生や中学生と園児が交流する機会を計画し、幼稚園活用を促進する。 ・幼稚園で遊べる機会を一つも持てるよう計画する。	・地域との関わりが継続して進めることが出来たか振り返る。 ・未就園児への積極的な園庭開放や自由参観などに取り組む。 ・未就園児と関わって遊ぶ中で3年保育を視野に入れて園内の環境等も計画していく。	B	・敬老の集い、もちつきにはたくさん地域の方が来園され、子どもともに楽しむ機会を持つことが出来た。 ・小学校・中学校との連携は、回数は少なかったが、充実した連携を図ることが出来た。又、教師間の連携が深まり、互いの思いを出し合ってきた。教育課程への理解を深めることができた。 ・未就園児への関わりは関わる機会が増えるように計画していく。	・たくさんの方を一度にお招きすることで、それぞれのやり方や難しいところもあるが、子どもに経験させたいことを軸として活動内容を決めていけるようになる。 ・引き続き、小学校や中学校との連携を図り、子どもがここがこれの気持ちを持てるように、教師間ではより連携が深まるよう計画していきたい。 ・平成32年度から始まる3年保育も見据えて、今出来る事、必要な事を見極め、取り組んでいきたい。	・地域交流は計画的に行われていると思う。子ども達にとってよりよい会になるように変化させていくことは、変わりゆく社会・家族のあり方に沿った一つのよい例にみえる。

学校関係者評価総括  
 ・限られた時間の中で、これだけのことに取り組んでいる。公立幼稚園だから出来る教育にこれからも期待している。  
 ・子どもの主体性を尊重した活動が行われることで、のびのびとした表現や遊びが多く見られる。その遊びの中から自然と仲間同士の思いやりが生まれている。

次年度に向けた重点的な改善点  
 ・再編による範囲・入園・3歳児保育の開始など大変ではあるが、次年度から計画的に、変わっていくもの、変わらなければならぬことしっかりと取り組んでほしい。  
 ・情報化が進む社会の中で、保護者とともに「豊かな心」のもち方を考えていくことで、子どもの教育が充実していくことが今後の課題である。